

埼玉佛教

平成22年1月 第181号

平成22年1月8日 発行
 No.181
 〒330-0063
 さいたま市浦和区高砂4-13-18
 財団法人 埼玉県佛教会
 電話 (048) 861-2138
 FAX (048) 864-6649
 発行人 藤田 得三
<http://saibutu.net>
 印刷所 関東図書株式会社



町田廣文実行委員長開会あいさつ

新年挨拶	2
第32回埼玉県佛教徒大会	3
埼玉講話	4
支部だより	5・6・7
・越谷市仏教会	
・浦和仏教会	
・東松山・潜川仏教会	
・鴻巣仏教会	
トピックス	7
・「埼玉同宗連」	
第30回研修会	7
狭山現地学習会	
・埼玉県宗教連盟	8・9
平和の祈り	
研修旅行	
会館だより	9
訃報	9
年賀広告	10
宗教法人を取り巻く	
環境変化と検討課題	
事務局日誌	11
編集後記	12
平成21年度宗教学人研修会	12

目次



新年挨拶

財団法人 埼玉県佛教会会長

藤田 得三



新春を迎え、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

さて、ご存知の通り「仏教」は釈尊を開祖とする宗教で、古来は仏法（仏の教え）或いは仏道（実践道）の語が用いられていました。そして、漢訳仏典では「諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教」（七仏通戒偈）という偈で知られています。

明治維新以降の日本は「先進国に追い付け」と汗を流しつつ、伝統と文化をしっかりと守り伝えてきました。しかし思ってもみ

なかつた経験、即ち敗戦が伝統文化に襲いかかります。

戦後、家族制度は崩れ、先祖崇拜の心が薄れつつあります。

「生まれてくる」「病で苦しむ」「死んでゆく」は、以前は私たちの住んでいる家庭の中にありましたが、今は、白い病院の内側にあり、外部とはつきり区画されています。そしてそのまま葬祭場へ運ばれ葬儀となる

と、家族も「旅立の課程」を見ないまま、お別れという結果になります。そして施設や病院や葬祭場の支払いが済めば総てわりと云うことになります。

生から死まで生命の尊厳が見えづらくなつたため、遂には人を傷つけても何も思わない、何も感じないという心になってしまふのではないのでしょうか。

仏法よりみますと「貪、瞋、痴」の三毒をもつ「ヒト」。特に現代の「ヒト」に於いては「豊かさ」と云えば「モノ」と「コ

コロ」即ち物質的なものと精神的なもの両面が満足している時、初めて「豊かさ」を感じる」と云えるのではないのでしょうか。しかし物質（経済）的な「豊かさ」を追求するあまり科学の力をもつて環境まで人間の都合の良い方へ変えていきました。今はそのしつぺ返りで、世界中で人為的自然災害が起きています。

仏教界は各宗の行事や臨終行儀・葬儀・追善供養、様々な教化活動を行い伝統文化を伝えていくのです。幸いなことに県佛会員の方々は「わが仏のみ貴し」とする方は居らず、仏教は釈尊の教えであり、一宗一派の宗旨だけで説くものではないという方々ばかりです。誠に喜ばしいことです。これらの方々に導かれる檀信徒の皆様もまた先祖に手を合わせています。

また毎日の生活の中で「お陰さま、有難う」「頂きます、ご馳走さま」「もつたない、す

まない」と云う仏教の心が詰まつた言葉をご先祖から確かに受け継いで居ります。しかしながら常日頃、情報化社会にあつて、パソコンやケイタイ等の科学文明に浴し、その恩恵を享受している一方で歴史的文化遺産の本質を忘れてしまつて居る方も見受けられます。

たとえ社会常識からはずれ、身勝手であつても自分だけ満足な生活であれば良い。報恩なんて考えなくて良いのだと：報恩と云うコトバさえも忘れてしまつて居るのではないかと思われ

物質文明で行き詰まつている人々に、人間としてこうあるべきだと示し、先に立つて歩んでゆくことが我々に求められています。今まで修行道場で培つてきた仏教の教えを持ち、且つ謙虚にわが国の文化・釈尊の心を伝え、再認識してもらおうべく進まねばならぬと思ひます。

第32回埼玉県佛教徒大会



去る10月7日（水）、大型の台風が本州に接近し、雨が落ちる中、秩父宮記念市民会館（秩父市）において第32回埼玉県佛教徒大会が開催された。大会テーマは『共に歩もう仏の道』で、参加者は県内各地から約600人。主管である秩父支部の町田廣文実行委員長の歓迎のことばで開会。続いて地元の秩父幼稚園園児による献灯献花が行われ、藤

田得三県佛会長を導師に記念法要が厳修された。法要終了後、



藤田会長から主催者挨拶、そして来賓挨拶として全日本仏教会の深澤信善事務総長並びに秩父市長（代行）からご挨拶をいただいた。

開会行事後の記念講演では、講師に元駒澤大学総長の大谷哲夫師を迎え、『道元禪師の御生涯』—映画「禅・ZEN」を撮

り終えて—と題し、ご講演をいただいた。映画「禅・ZEN」の原作『永平の風・道元の生涯』の原作者として、映画撮影の裏話や道元禪師のおことばを交え、現代社会に仏教を活かして生きていく大切さなどをわかりやすくお話しされた。



午後からの記念公演では、地の伝統芸能である小鹿野歌舞伎が上演された。マスコミなどで紹介される小鹿野歌舞伎保存会の皆さんによる温かみのある舞台は、参加者からおひねりが

飛ぶほど好評であった。

本大会は昭和52年に本県で開催された、第25回全日本佛教徒会議埼玉大会を契機に翌年から毎年開催されている。埼玉県内を東西南北の四ブロックに分けて、持ち回りで開催。本年は北部地区が担当しており、北部地区に限らず、その他の地区からも大勢の参加者があった。

禅が動き出した！

来る2月21日（日）、午後4時より飯能市民会館を会場に映画「禅・ZEN」の原作者大谷師、映画監督の高橋伴明氏による対談講演が開催される。参加費は千円。主催は、曹洞宗埼玉第二宗務所青年会「彩青会」。

・お問い合わせ「講演会事務局」
曹洞宗・高福寺（毛呂山町）
【049-294-0718】

埼玉講話 第四回

「今を大事に」

常務理事 加藤 玄静

(本庄市・城立寺)

新年明けましておめでとございます。平成二十二年は寅年であり、古来より十二支では「虎」があてられております。日本には生息していませんが、日本人は虎の存在を早くから知っていたようであります。

ご存じの通り、正月は年神を迎え、祝う行事とされていきますが、元々はお盆と同じ起源で、先祖と家族が一緒に過ごす習わしとされております。

去年は政治・経済・社会において、多難の年でありましたが、本年は少しでも良い年にしたいものであります。その為には、先ず私達国民が良い縁に触れる

れが「転識得智」、即ち転依であります。

仏教が自業自得の教えであるように、人間は生まれによって尊からず、自らの行為によって尊い人になるのであります。

本年一年を、「今を大事に」良縁に巡り会えますように、寺への参拝を檀信徒に「心がけ」させましょう。今こそ、人格形成の種を蒔く事で、今生きていくという思い、今生かされていくという感謝が、広く家族への思いやり、社会への思いやり、国への思いやり、世界人類への思いやりへと広がっていく事こそ、私達僧侶の願いではないでしょうか。



●埼玉会館・物件情報（お問い合わせ・県佛事務局 電話 048-861-2138）



- 事務室② 17.8㎡
53,200円/月（電気・水道・共益費込）
- 事務室③ 21.6㎡
66,000円/月（電気・水道・共益費込）
- 倉庫 6.8㎡
18,000円/月（共益費込）
- 駐車場 一台あたり、15,000円/月

支部だより

越谷市仏教会 一日研修会

越谷市仏教会

幕末に活躍された女性『天璋院篤姫、皇女和宮を訪ねて』を研修テーマに10月6日(火)、越谷を8時40分、バス二台、参加者77名で、東京は芝・増上寺上野・寛永寺をお参りさせて頂き、昼食後、浅草・浅草寺をお参りして戻りました。増上寺様では総回向をして頂き焼香をした後、職員の方より詳しい説明をして頂きながら將軍の御廟を参拝させて頂きました。十四代將軍家茂公の隣に静寛院和宮の案内の説明札が建てられておりました。お墓の規模は家茂公と同じ大きさで、家茂公は石塔で和宮は青銅製でした。幕末に徳川家に尽くされた方に相応しい立派なお墓でした。

続いて寛永寺様に伺い將軍家御廟を職員のご説明を伺いながら参拝させて頂きました。徳川將軍の御廟は増上寺と寛永寺に分かれており、寛永寺では五代、八代、十三代(篤姫)、現在の



徳川家の靈廟を参拝させて頂きました。八代將軍は享保の改革をされた方に相応しく、財政の改革の精神が靈廟にも表されており綱吉公の一部を拡張して、

廟部分だけを造り、位牌等は綱吉公の靈殿に合祀して靈廟関係の一切の建物を略され、以後幕末までこの様式が受け継がれたとのことでした。

十三代將軍家定公の正室天璋院篤姫の御廟は家定公の隣に、家定公と同じ規模で建てられており、和宮と同じ徳川家に尽くされた方としてのあらわれと考えてよいのではないかとの説明でした。

歴代の將軍の御靈廟

増上寺…二代、六代、七代、九代、十二代、十四代。
寛永寺…四代、五代、八代、十一代、十三代。

(報告・越谷市仏教会会長・

奥野明彦師)

浦和仏教徒大会

浦和仏教会

去る11月26日(木)、埼玉佛会館において浦和仏教会主催「浦

和仏教徒大会」を開催した。

第一部を講演会、第二部を懇親会とし、講演会の講師にはプロ野球評論家で元ロッテオリオンズ監督の有藤通世氏をお招きした。

第一部の内容は講師と参加者との質疑応答形式とした。高校野球経験者からの質問や日頃の素朴な疑問などに、専門家としての意見や秘話も交えながらの講演であった。高校野球や大学野球などアマチュアの世界から、厳しいふるいにかけてプロの世界に入った選手達の熾烈なレギュラーポジション争いや、一流の選手達の日頃の鍛錬の仕方や心構えなど実に奥深い内容であった。またタイムリーな質問では、プロ野球名球会や野村監督について、或いは菊池選手ドラフト問題、アメリカ大リーグで活躍するイチロー選手や松井選手の事柄などがあり、思わず時間の過ぎるのを忘れてしまうほどであった。

有藤氏には第二部の懇親会にも参加いただいた。乾杯後、参加女性方に囲まれた写真撮影の多さにおどろいた次第である。



浦和仏教会としては初めての試みであったが、参加者の皆様には十分に楽しんでいただけたのではないかと思う一日であった。また、当日は天気にも恵まれ、市内各寺院の檀信徒や関係業者など80名を超える参加があり、引き続き行われた懇親会は60名を超える方々にご参加いただき大盛況であった。

(報告・浦和仏教会・本間照常師)

◆11月4日(水)。さいたま市緑区の尚和園(養護老人ホーム)において埼玉県佛教青年会と合同で慰霊法要を厳修。

第15回 仏教講演会

東松山・滑川仏教会

東松山・滑川仏教会主催による第十五回仏教講演会が、11月26日(木)、東松山市民文化センターで行われた。

当日は、秋晴れの天候に恵まれ、約90名にのぼる仏教徒が集まった。開会式では本年当番宗派の浄土宗の司式に則り、加盟寺院の六宗派と天台・曹洞宗青年僧の出仕のもと、各宗独自の衣帯を着し法要が厳修された。

開会式の中で、中村瑞峰東松山・滑川仏教会会長は日本仏教の伝統と宗教観を自己のエピソードを交えた分かり易い話で聴衆に語りかけ、仏教講演会の意

義を説いた。

今年の講師は、皇女和宮ゆかりの寺(箱根・阿弥陀寺)住職水野賢世和上。水野和上は『心の調べ・和歌と琵琶』と題して、日本文化を創造してきた「ことば」と、古典芸能としての琵琶の魅力について一時間余にわたる、講演しながらの弾奏がなされた。水野和上は、今年開かれた全国琵琶コンクール第二位入賞の実力に加え、浄土宗吉水流詠唱指導の第一人者である。訪れた聴衆は、和上の唄声と琵琶の音色に至福の時を過ごした。



講演後、水野和上に講演会のポスターおよびパンフレットの絵を画いた亀山祐介画伯の原画が贈られた。

また閉会式では、参加費の一部を交通遺児への援護金として埼玉県交通安全対策協議会に手渡され、上田清司知事からの感謝状が授与された。続いて、来賓代表としてご挨拶に立った藤田得三埼玉県佛教会会長は「十五年の長きにわたっての素晴らしい取り組みに敬意を表すと共に、檀信徒の力強い理解と協力の賜であり、今後の更なる発展を祈念いたしております」との祝辞を述べられた。

また、講演終了後に開かれた慰労会には、藤田県佛会長を囲んで加盟寺院をはじめ、関係各聖さらには協力をした有志ら六十余名が参加し、盛会を祝うと共に、来年に向けての意気込みを確認した。

(報告・東松山・滑川仏教会・

村井惇匡師)

第15回わかる仏教講演会

鴻巣市仏教会
鴻巣地区仏教研究会

去る12月3日（木）、鴻巣市文化センター「クレアここのす」大ホールにおいて、『第十回わかる仏教講演会』が開催された。主催は鴻巣市仏教会（穂積容山会長）、共催は鴻巣地区仏教研究会（小林弘範会長）。雨が落ち、寒さが増す天候で出足が鈍るかとお心配されたが、約70名の参加で座席はほぼ満席となった。午後一時三十分に関会。法楽の後、穂積会長のあいさつ、続いて来賓の鴻巣副市長と藤田得三県佛会長のあいさつがおこなわれた。



えるまで、常に上り坂で最高の時を生きることが大切であるなどを話された。また、仏教学者の大内青巒氏の言葉を紹介され、「ありがとう」「もったいない」「お気の毒に」の三語に仏教の精神が詰まっていると説かれたのが印象的だった。講演終了後に、謝辞と記念品の贈呈が行われ閉会となった。閉会後には、会場を移し足立老師を囲んで懇親会がおこなわれた。

11月10日（火）、「埼玉同宗連」（藤井壽雄議長）は埼玉佛会館を会場に『第30回研修会』を開催した。講師には（財）埼玉人権・同和センター理事長の片岡明幸氏をお招きし、同センター発行の『部落の歴史・埼玉編―社会科歴史学習（補助教材）』を資料として使用。同資料は小・中学校における社会科の歴史学習に使用されているもので、幅



ト
ピ
ッ
ク
ス

「埼玉同宗連」 第30回研修会



12月9日（水）、狭山市の富士見集会所を会場に、学習会を開催。『狭山事件の再審を求める市民の会』代表の庭山英雄弁護士より「狭山事件に見る冤罪の構造」について、続いて石川一雄さん本人よりお話をいただいた。事件発生から46年が経過し、携わる方々の高齢化が進んでいるというのが印象的であった。午後は県連書記長、小野寺一規氏の案内で事件現場を確認した。

狭山現地学習会

広い世代にわたって部落の歴史が理解できる内容となっている。

埼玉県宗教連盟

平和の祈り



7月21日（火）、埼玉県宗教連盟（中山高嶺理事長）は川越市のカトリック川越教会を会場に『平和の祈り』を開催した。世界中で起こっているテロや自然破壊、事件事故に心を痛め、世を憂いている現状で、宗教に携わる者が宗教・宗派を超えて、一堂に会し、世界の平和の祈りを捧げ、平和の実現を共に願う

というものである。今年は、埼玉県佛教会（会長・藤田得三師、専務理事・深谷雅良師、川越支部長・實浄龍彦師）、埼玉県佛教青年会、天理教、新宗連埼玉（松緑神道大和山、真生会、修養団捧誠会、解脱会）、カトリック教会、埼玉県神社庁、埼玉県神道青年会、立正佼成会、日本基督教団より約150名の参加があった。

埼玉県宗教連盟研修旅行

去る8月30日・31日の旅程で開催された埼玉県宗教連盟主催の研修旅行に参加した。本会からは、藤田得三会長、深谷雅良専務理事と金子嘉広事務局長、他の計7名が参加。総勢40名。最初の研修地は、青森県の下北半島に位置する恐山。寺名は恐山菩提寺（本尊 延命地藏菩薩）。本坊は曹洞宗円通寺。

恐山は、カルデラ湖である宇曾利湖を中心とした外輪山の総称であり、『恐山』という名称の単独峰はない。火山岩に覆われた「地獄」と呼ばれる風景と、美しい宇曾利湖の「極楽浜」との対比が特徴である。カメラの入ったことのない本堂奥の貴重な円空仏を拝観。

恐山という言葉の響きと、死者の口寄せで有名なイタコの存在からおどろおどろしいイメージを抱いていたのだが、ユーモアたっぷりの案内人の説明に爆



恐山にて



笑の渦。イメージは払拭された。

宿泊地は、浅虫温泉・海扇閣。部屋からはむつ湾の眺望がすばらしく、眼下には浅虫海岸が広がっていた。浅虫の由来はかつて住民が温泉で織布の麻を蒸していたため「麻蒸」とよばれ、のちに火難をおそれて火に縁のある文字「蒸」を嫌い「浅虫」になったといわれている。毎晩開催されている津軽三味線のライブを間近に鑑賞、迫力のある音と響きに感動した。

翌朝、新宗連に所属する松緑神道大和山の本山を訪れた。大和山は津軽地域の深山に在り、深い緑が醸し出す凜とした空気と清流のせせらぎが印象的。



松緑神道大和山 神集閣前にて

途中リンゴ畑と岩木山を見ながら、世界自然遺産に選ばれた白神山地の入口、ビジターセンターを訪問。センターでは、歌手の吉幾三氏に出会った。

次に弘前市内の観光会館に立ち寄った。時間があれば城下町弘前の古い建物や、カトリック教会をゆつくり観たかった。そして、お土産に美味しいお菓子も選んでみたいと思っていたが、疾風のごとく駆けめぐった感がある。また、ゆつくり訪れよ、とのことなのであろうか。

(報告者 北之内主事)

会館だより

◆利用状況

- 8月以降、貸し会議室を宗派関連でご利用頂いた団体様は、
 - 9月4日 日蓮宗・霊断師会埼玉県支部様
 - 10月20日 天台宗・埼玉教区研修所様
 - 11月9日 日蓮宗・声明師会様
 - 26日 浦和仏教会様
 - 12月3日 真宗大谷派様
- ご利用ありがとうございます。

会館概況

・9月4日(金)、埼玉会館の北東角地、観音様のそばに立っていた檜の木が枯れ、倒れる危険性があつたため伐採した。

・会館三階のテナント部分について、宗派および埼玉関係企業

への募集活動を行った結果、入居の希望があり、入居希望の企業について会館運営委員会にて審議の結果契約を決定。これにより、先の理事会・評議員会における承認に基づき、三階部分のパーテーション工事を完了し入居希望者との契約を締結。事務室①契約済みの部分には、現在埼玉会館のメンテナンス委託先である株式会社全日が入居。

二室ある倉庫の一つは浄土宗が利用。空き室部分については、引き続き募集活動を行う。テナント募集内容は4頁下枠内を参照。

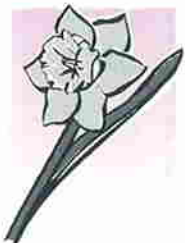
お知らせください!!

・当会では、支部行事、会員寺院における催事の案内を県ホームページにて無償で行っております。催事内容の書かれたチラシ・パンフレット等を県佛事務局までお送り下さい。

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

- 六月
- 30日 川口市宗信寺(日蓮) 大橋 辨成 師(79歳)
- 九月
- 29日 鴻巣市龍光寺(曹洞) 江熊 芳雄 師(85歳)
- 十月
- 7日 川口市正覚寺(曹洞) 澤口 重徳 師(82歳)
- 11日 深谷市光明寺(高野) 日野 快應 師(94歳)
- 十一月
- 9日 飯能市長念寺(曹洞) 大河原達雄 師(73歳) 元支部長
- 24日 川島町金乗院(豊山) 小島 董久 師(82歳)





（勸）全日本仏教会 監事
（勸）埼玉県佛教会 副会長
曹洞宗 能仁寺 住職

萩野映明

〒357-0063 飯能市飯能一三二一九
電話 ○四二一九七三―四二二八
FAX ○四二一九七四―五三四六

<http://noninji.com>

会長
藤田得三
勝願寺 住職

鴻巣市本町八一―二二三
電話 ○四八―五四一―〇二二七
FAX ○四八―五四一―〇五四

（勸）埼玉県佛教会副会長
真言宗豊山派持明院 住職

木村盛雄

〒三五九―〇〇三八 所沢市北秋津八五

（勸）埼玉県佛教会専務理事
大應寺 住職

深谷雅良

富士見市水子一、七六五
○四九―一五一―五六二一

厄除本庄薬師如来
開運大黒尊天
住職 加藤玄静

自坊 鉢形山城立寺

〒357-0052 埼玉県本庄市銀座三十四―七
TEL ○四九五―二四―五五四四
FAX ○四九五―二二―七三六六

（勸）埼玉県佛教会常務理事
自坊 観音寺（真言宗豊山派）

杉村良哉

〒340-0816 八潮市中央四―八一―二〇
TEL ○四八―九九六―四四五〇
FAX ○四八―九九六―四四五〇

真言宗智山派
密蔵院 住職

山口正純

川口市安行原二〇〇八
○四八―二九六―〇七七四

吞龍上人祈願所
十八檀林霊場会
浄土宗 蓮馨寺

住職 糸原恒久

〒350-0066 川越市連雀町七一―一
TEL ○四九―三二二―〇〇四三

天台宗東泉寺住職
（勸）埼玉県佛教会理事

河野亮玄

〒330-0014 さいたま市浦和区瀬崎二―一五―三三
電話 ○四八―八八六―五一―一四
FAX ○四八―八八六―四一―五一

開基 慈覚大師
中興開基 徳川家康公
曹洞宗 浄山寺（野島地藏尊）
住職 石井知章

〒343-0801 埼玉県越谷市野島三―一
TEL ○四八―九七六―五六四六
FAX ○四八―九九九―四一―三六

〒三三〇―〇〇五二
さいたま市浦和区本太一―四二―二二

天台宗 延命寺
住職 河野亮仙

電話 ○四八―八八二―六三九〇
FAX ○四八―八八五―三六六六

<http://www.enmeiji.com>

彌勤密寺
上村正剛

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町二―七―三五

真言宗智山派 医王院
代表役員 今野泰男

新四国弘法大師埼玉東八十二番霊場
〒345-0811 埼玉県南埼玉郡宮代町道仏三四六
TEL ○四八―〇三二―二二〇八
FAX ○四八―〇三二―二二八三

草加市佛教会
会長 丹羽尊照
事務局長 帛溪文有

宗教法人を取り巻く 環境変化と検討課題

野村證券(株)法人企画部

塚寄 智志

宗教法人を取り巻く環境が大きく変化してきていることはご承知の通りであるが、今後とも宗教法人としての永続性を担保し、尚且つ発展していくためには、その環境が今後どのように変化し、その変化に対してどのように対応すべきか、昨今の社会情勢、経済環境等を含めて検証していきたい。

「宗教的側面と世俗的側面」

まず、宗教法人・及び宗教者の活動を見ていく場合、聖の部分(宗教的側面)と俗の部分(世俗的側面)の二面性があることを理解する必要があると思われる。宗教法人とは、宗教的側面が主たる存在価値(意義)であるが、現在の社会情勢・経済環

境等様々な要素を考えると、聖の部分を守る(維持)ために世俗的側面を適正に理解し柔軟に対応していく必要があると思われる。

「宗教観」

様々な要因で人々の生活から宗教的意識、行動が離れていつてしまっている現状の認識は必要であると思われる。ただし、本質的な価値を模索していく行動・意識が顕著に見られ始めた変化を見逃してはならない。

「人口動態」

一様に人口減少が進行しているという漠然とした理解はできているとしても具体的に検証していく必要があると思われる。

「公益法人制度改革」

宗教法人に対する直接的な法改正ではないが、公益法人制度改革という大きな動きがある。今後この法改正が宗教法人に対

してどのような影響を与えるのか、社会福祉法人、学校法人等への動向を見極めつつ、関係各部署との関係を図り、情報収集しつつ危機意識を共有すべきであろう。

「法人運営」

宗教法人としての運営の安定性を考えた場合、社会情勢、地球環境の変化に伴い顕在化してきているリスク(不確実性事象)への対応も求められる。リスクに対しての準備を整えることが法人運営の安定性に繋がると思われる。

「期待」

宗教法人及び宗教者の方に期待されている部分は大きいと思われる。それは、人間の本質的価値を追求するという根本的な課題に対して宗教者に求められることが多くなると思われるからである。この社会情勢の中、宗教法人・宗教者の方々が担わ

れているその重責を果たし、後世に継承していくためにも聖(宗教的側面)と俗(世俗的側面)の二面性を理解し、宗教者としての本質を守るためにも世の中の変化を把握し対応を検討すべきであると思われる。

塚寄智志(つかざき さとし)

一九六八年福岡県生まれ

野村證券(株)法人企画部公益法人課課長宗教法人セクター担当として、宗教法人運営の本質的課題の解決を図るべく宗派を問わず全国飛び回っている。また、宗教法人向けに様々な研修、勉強会、セミナーの講師も務める。

◆全日本仏教会機関誌『全仏』第548号・549号・550号の「論点・視点」にて特集された記事を抜粋させていただきました。

事務局日誌

十月

- 6日 県佛大会前日準備
- 7日 第32回埼玉県佛教徒大会
- 9日 埼玉佛教180号発送
- 「埼玉佛保」幼児画展案内送付
- 10日 人権教育研究集会
(羽生誠和福祉高校体育館)
- 16日 会計中間報告
- 伊澤税理士・深谷専務理事
- 20日 埼玉佛青「写仏」
- 22日 第4回会館運営委員会
第2回公益移行検討委員会
- 29日 第7回人権フォーラム
(さいたま市ときわ会館)
第10回埼玉県知事要請行動

十一月

- 4日 浦和仏教会・尚和園慰問
法要
- 10日 「埼玉同宗連」役員会
「埼玉同宗連」研修会
第1回「埼玉同宗連」人権啓
発デジタル資料作成委員会
- 11日 埼玉佛青「写仏」

- 18日 第29回部落解放埼玉県研究
集会(東松山市民文化センター)
- 20～22日 鹿児島人権交流会・
清昌道師・森田真隆師参加
- 26日 浦和仏教会講演会(埼玉佛
会館) 講演・有藤通世氏
東松山・滑川仏教会講演
会(東松山市民文化センター)

十二月

- 3日 鴻巣仏教講演会
- 5日 浦和仏、埼玉佛青歳末托鉢
- 8日 第5回会館運営委員会
第3回公益移行検討委員会
共同募金会歳末寄付
- 9日 「埼玉同宗連」狭山現地
学習会(富士見集会所)
- 11日 埼玉佛青、会館倉庫整理
- 22日 埼玉佛青「写仏」
- 28日 事務局仕事納め

編集後記

初夢に見ると縁起が良いものを表す諺に「一富士、二鷹、三なすび」というものがあります。この起源には諸説があり、徳川家康のお膝元(駿河)の名産であるものから、これらの夢を見ると家康のように立身出世でき、安泰に繋がったと。また富士は末広がりで子孫繁栄を、鷹は気流に乗って上昇するので運氣上昇を、茄子は毛がないので「怪れない」と洒落て家内安全を願うというようです。今年も元気に精進いたしましょう。(鯉)



宗教学者研修会案内

□ 平成21年度 宗教学者研修会の開催について □

- 平成22年2月9日(火) さいたま会場 埼玉佛会館
13:30～15:30 定員80人 2階・東西会議室
所在地:さいたま市浦和区高砂4-13-18
- 平成22年2月10日(水) 熊谷会場 熊谷地方庁舎
13:30～15:30 定員100人 4階・大会議室
所在地:熊谷市末広3-9-1